

台風被害の爪痕大きく

台風18号の被害総額発表

9月8日早朝に知多半島付近に上陸し北東に進んで東海地方を縦断、9日午後には温帯低気圧となった台風18号。進路から東海地方に被害が出るものと思われたが、特に関東地方の栃木県・茨城県に甚大な被害をもたらした。農林水産省は9月10日時点で農林水産物に関する被害状況を発表している。農産物等の被害状況は東海・北陸・関東・九州・沖縄県内にて水稻・果樹・野菜・さとうきび・花卉・大豆等で合計43,654ha、ビニールハウス等の損壊・破損等で13984棟、被害額として16,487百万円となっている。10日時点での被害総額のため被害額はまた拡大するだろう。

一番被害が大きい茨城県では農産物等で27市町において被害面積は5,110ha、推計被害額は3,225百万円の被害が報告されている。被害状況は河川の決壊による冠水・浸水によるものだ。水稻3652.1ha、大豆723.7ha、そば530ha、となっており野菜類ではキャベツ・レタス・ハクサイ・ネギの露地野菜、イチゴ・キュウリ等の施設野菜にて合計205.2haとなっている。現在、堤防が決壊・オーバーフローした鬼怒川をはじめ各河川では仮堤防の敷設工事が急ピッチで進められており、シルバーウィーク期間中には1日あたり数千人規模でボランティアの協力により片付けが徐々に行われている。今回の農作物被害は主に冠水によるものだが、その被害軽減に向けた技術対策資料が発表となっているので今後の教訓としてご紹介したい。当社取引先においても漏電による火災、工場浸水に見舞われた。改めましてお見舞いを申し上げますと共に1日も早い復旧をお祈り申し上げたい。農作物が浸水・冠水被害に見舞われた場合は要約すると以下の通りだ。書面の関係から各農作物におけるの対策については茨城県農業総合センターHPをご覧ください。



浸水・冠水被害対策（要約）

- ◎事後対策は安全を確認してから
- ◎浸水した農業機械はスイッチを入れる前に整備点検
- ◎電源確保出来ればいち早く排水ポンプで圃場内の水を排出させ乾燥に努める
- ◎肥料流亡している可能性があるため液肥でかん注または葉面散布で作物の消耗を防ぐ
- ◎細菌類の蔓延が懸念されるため薬剤の防除を行う
- ◎定植期の苗は液肥を散布し老化を防止する
- ◎播きなおす場合は作型にあった品種を選定して播きなおす

MAC掲示板～休業案内～

来る **10月9（金）** は当社創立記念日の為、休業とさせていただきます。

各地で飼料用米生産の模索が進む

今年是全国各地で今までと異なった田園風景が見られるようになっていく。それは「飼料用米」の作付圃場が散見されるようになったからだ。しかし飼料用米の本格的な取組はまだ始まったばかりで、生産者や流通業者からは様々な意見が聞こえてきている。今回はそうした意見をレポートする。

■専用品種での作付パターンを模索

10a 当たり最大交付単価10万5千円の他にプラス専用品種の導入、更に耕畜連携助成で最大12.8万円の収入が見込まれることもあって飼料用米専用品種での作付を行うケースが増えてきた。ただ種子集めに奔走した事と生産された飼料米の売り先確保に苦労したという意見は多い。また、専用品種の採用にあたっては今年の収量の結果を見て一番獲れた品種により作付拡大を目指す、ただし、飼料用米に全部は切替えないといった意見も聞こえてくる。栽培上の困難回避から、あえて一部の除草剤耐性がない品種の導入（トリケトン系除草剤感受性）をまず行い、次年度はトリケトン系成分の除草剤散布を計画し漏生イネを防ぐといったケースも聞かれた。あくまでも自分で売り捌ける量は一般品種を作付しながらも専用品種で飼料用米を生産するケースもある。米麦地帯では早生の専用品種を作付して飼料用米を生産、そのあとに麦も植えて1万5千円の二毛作助成をも狙うパターンも作付体系の確立が鍵だが検討されている。



穂長が30cm近くまで育つ北陸

■一般品種で飼料用米生産にチャレンジ

専用品種の漏生イネの問題と一般品種とのコンタミの恐れや、地域的に飼料用米は取り組まない、或いは追加で飼料用米の作付要請が来たため専用品種の確保が間に合わなかった、という場合、一般品種で飼料用米生産に取り組む事例が増えている。一般品種でも多収性のある品種に知事特認制度を利用して自治体独自で補助金を付けている場合もあり、このような動きを後押ししているといえる。

■流通業者の声～商売のチャンスとして取り組む

一部のJAや関連業者が飼料用米の集荷にあまり積極的でないため、生産者から飼料用米を取り扱ってくれないかとの問い合わせに対応する流通業者もいる。生産者は生産したら直ぐに出荷してほしいとの意見が多いことから生産者や買い先との保管場所の交渉、保管時期の確認、フレコンバックの確保等、新たな仕事が増えたとの事。ただ、飼料米自体の単価が安いと米自体に手間賃が載せられず流通業者にとっては厳しい対応となっているケースも多い。ただし、商系の資材業者兼集荷業者にとっては新規に取引先を増やせるきっかけにもなっており生産者の要望に応じることで資材販売につなげようとする集荷業者も徐々に増えているようだ。

いずれにしても系統・商人系集荷業者を問わず新しい取組のため地域に適合した品種選定と肥培管理方法は今後も模索が続く。

農業資材 EXPO2015 出展のお知らせ

来る10月14～16日に幕張メッセで開催される、農業資材 EXPO に当社の展示ブースが出展致します。農業資材 EXPO はアジア最大の農業資材・肥料・機械の展示商談会です。

入場招待券は当社の各営業担当者までお問い合わせください。皆様のご来場をお待ち申し上げます。

期間：10月14日（水）～16日（金）

10：00～18：00（最終日は17時まで）

場所：幕張メッセ（千葉県）

詳細：<http://www.agritechjapan.jp/>

お問合せ：本店特販部 / 松本（03-5275-5513）

この度の浸水被害遭われました方々には心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い普及をお祈り申し上げます。

編集事務局：南部、助川

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL <http://www.mcagri.jp>